

第25回 大鹿村リニア連絡協議会質疑応答概要

日時：令和4年9月27日 午後7時から

場所：大鹿村交流センター

1. 県発注工事について

○四徳大橋の待避所確保のために案内標識はなくなるようだが、代替標識は他に設置する予定か。また、観光客はナビを頼りに大鹿村へ向かって来るが、古いナビは旧道を示し向かってしまう方がいる。案内がもう少し充実すると良いと思われるので要望したい。

A：案内標識については、資料の写真手前の川側へ移設し対応しているところです。また、西下トンネル西側の案内については現地確認させていただき対応を検討してまいりたいと思います。

○前回6月に河川内道路の活用についてお願いしているところです。ダンプの運転手も通行できれば、非常に助かるという話は聞くがご回答をお願いしたい。

A：半の沢の盛土工事が進んでいる中で、一般車両を通行させることは困難です。県としてもこちらを供用させるのは難しいと前回回答させていただきました。その中で工事車両に限定した通行が可能であるか管理者である天竜川上流河川事務所及び天竜川ダム統合管理事務所ご意見を伺いながらどのような対応ができるかをJR、村と検討を進めていきたいと考えています。

2. 南アルプストンネル工事・伊那山地トンネル工事について

○ダンプのすれ違いの際、未だホーンを鳴らす方がいる。おそらく新しく入ってこられた運転手であると思う。これらの指導は繰り返しやってもらいたい。またトンネル内でダンプが追越しをさせる際に左側のウィンカーを出す方がいます。あとスピードですが、80km/hを超えて走行している方、斜めにショートカットしてくる方がいます。こちらの指導も繰り返しお願いしたいところです。

A：従来からすれ違いの際の挨拶ホーンは鳴らさないよう指導はしておりますが、ダンプ台数の増加に伴い追加で入った新入者に対しても、その都度JVから、必要に応じて私共からもしっかりと教育いたします。そもそもトンネル内での追い越しは禁止されているところでもありますが、小渋砂利運搬安全対策連絡協議会のメンバーと共に大鹿村を走る関係車両はトンネル内での追い越しはしないというルールを徹底してやっていきます。また、80km/hを超えて走行していたダンプがいたことに関しまして、個別に指導させていただいたとともに、他のダンプにも注意喚起いたしました。

○工事の運搬車両台数は3カ月～5カ月先のスケジュールが出されるが、長期的な工事スケジュールを示すことができないのか。

また、運搬台数820台になるように、上回らないように調整する説明がありましたが、何の調整でしょうか。

もう一点、工事関係車両ですが、大型のものは仕方ないと思いますが、比較的小型のものは岩洞経由で通行させることを考えていただけないか。

A：昨年12月の協議会で全体工程のスケジュールをお示しさせていただいていますが、これに基づいて南アルプスのトンネル工事を進めております。また、発生土運搬車両については発生土置き場がきちんと最終的に決まればそれに基づく工程をお示しできますが、まだ決まっていない場所も多く、決まっている発生土置き場への運搬についてご説明させていただいております。

820台については、昨年12月に工程を出したときに今後の運行台数約1年間分の運行台数をお示ししております。各置き場への運行台数の増加により、去年の数字を超えることがあれば、改めてご説明をしますが、現在は、通行する他町村との調整も含めて、820台を超えないように調整している状況です。

小型の工事関係車両を岩洞を通せないかとのことですが、これまで検討しておりませんでしたので、一度検討したいと思います。

○釜沢非常口で先進坑でなく本坑を掘削しているが、先進坑で地質調査をしながら確認後、本坑掘削すると思われるが、並行して掘削していくことでよろしいのか。

A：過去に長野県企業局が導水管を掘削している実績と除山非常口からの斜坑の掘削から、この地質調査結果と照らし合わせ同等の地質であると判断したことが一つです。また、先進坑から超長尺ボーリングを除山非常口に向かって削孔しており、その結果も踏まえつつ、前方の地質を確認しながら本坑の掘削を行っております。

○青木川の手前で掘削されているようだが、土被りが浅い箇所なので水の影響も懸念されるとおもわる。慎重に掘削をお願いしたい。

○駒ヶ根市の上赤須、中沢への運搬土量はどのくらいなのか。

A：中沢が20～25万 m^3 ほど、上赤須が3万 m^3 ほどを想定しております。

3.対策土の活用に向けた検討について

○ひじきに含まれる重金属濃度と土壤汚染対策法基準を例に載せているが、単位が違うのでこの数字の大小で比較することはどうなのか。多分安全であるとは思いますがその辺はどう考えるのか。

また、引用文献で 1~3 を表記しているが、どの文献を引用しているのか最後まで載せていただきたかった。

A：ご指摘のとおり、単位が異なるので、単純に数字の大小は比較できないと思います。ひじきは重さ当たりの重金属量を示しており、溶出基準は水の体積当たりの重金属量を示しています。そのため、例えば、ひじき 1 kg と水 10 (1 kg) とすれば、同じ重金属量として比べられます。必ずしも横並びで比べられないかもしれないが、そのように比べ参考にしていただければと思います。今回示させていただいた内容は、公にされている文献を参考にさせていただいております。具体的には、独立法人土木研究所による「建設工事で発生する自然由来重金属等含有土対応ハンドブック」、国交省の依頼により設置された検討委員会による「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」、環境省による「土壌汚染対策法の施行について」などを参考にしております。

○発生土に含まれる重金属等は簡単に試験できるものなのか。また、試験は専門機関に外注しているのか。試験に時間を要するのであれば、判定されるまでの間に、その後発生した発生土と混ざってしまうことはないのか。

A：毎日 1 回ずつ実施する重金属等の試験は、専門機関に委託しております。試験結果がでるまでは多少時間がかかりますが、非常口には土砂ピットを設けており、試験結果が判明するまでの間、その日に出てきた発生土をそのピットに置いています。判定後、結果に基づき発生土仮置き場であったり、村外発生土置き場に運搬したりしております。土砂ピットは、いくつか区分けされており、判定中は発生土が混ざらないように適切に管理しています。

○仮置き場 E に置いている対策土は、以前南アルプストンネルから生じたヒ素を含有する対策土と聞いているが、現在どの程度の量が仮置きされているのか。今回、工事進捗の説明にて、追加で 1 日分出たとあったが、ヒ素でよいか。また、今後発生する対策土はどのくらいの土量が見込まれるのか。

A：現在、仮置き場 E に置いている対策土は、地山土量で 3,000 m³ほどです。また、先ほど工事進捗でご説明した前回協議会以降に生じた対策土は、現在仮置き場 E に仮置き対策土と同様にヒ素をであり、仮置き場 E に仮置きしています。最終的な対策土土量の見込みについては、先進抗の掘削なども終わってないことから、現時点では申し上げられないです。

○遮水シートの封じ込めですが、シートの耐久性はどの程度か。遮水シートによる封じ込め対策を行った場合、この土地の将来使用する場合に影響はないのか。

A：ここで具体的に何年程度の耐久性があるのかは申し上げられないが、この遮水シートによる封じ込めなどは、最終処分場などでも用いられており、非常に耐久性に優れたもので考えていた

だければと思います。遮水シートによる封じ込めを行った土地についてですが、シートに傷をつけてはいけませんので、例えば上部に建物等を建てるために杭を打つなどはできなくなります。そのため対策土の活用にあたっては、将来のその土地の活用方法も含めて、検討をいていくこととなります。また、必要な管理を将来にわたって行っていくこととなります。

○試験施工とあるが、どのようなものなのか。

A：不溶化による対策土活用を検討するため、試験施工すると申し上げましたが、具体的な内容は、有識者が参加する検討会を開催し、助言を得ながら決めていきたいと考えている。不溶化に関する検討は、室内でできるものもあるので、これまで進めてきたところです。今回行う試験施工は、室内試験での結果なども踏まえ、実際に発生している対策土に対して、重機を用いて施工することで、実際の施工において不溶化の効果が出るか、必要な地盤強度が出るのかなどを確認することとなります。

○試験されたものは最終的に撤去されるのか。

A：あくまで試験であるので、基本的に撤去する考えです。

4. 鶯ヶ巣沢環境対策事業について

○完成予想図を見てですが、流路工のところは橋を架けることでよろしいのか。

A：小渋川護岸沿いは、管理用通路として通行できるようにする。流路工の部分は、橋を設け通行できるようにします。

○大鹿村が事業主体であるようですが、土曜日の工事や時間的な配慮等はどうなのか。また音の問題もあるのでは。JRの都合にあわせるのではなく、事業者である大鹿村に合わせて工事を進めていただきたい。

A：地元の皆さんと打合せしながら状況等確認して進めてまいります。土曜日についても外へ運び出さないためにこの工事は必要と考えております。

5. 送電線工事について

○持病がありヘリコプターの音で動悸や頭痛を発症する報告を受けている。また昼休み時間帯の運行を避ける書いてあるのはいいが、本日はお昼も飛行していました。また工事現場にゴミが落ちているというのも確認しております。あと、私事になりますが、子牛が脱走しました。天候によるルート変更は仕方ないが、今日は天気が良かったと思うがルートが違うように感じた。騒音の最大値と場所を教えてください。

A：今日の昼の実績ですと14時半位から夕方まで飛んでいます。昼休みは避けている認識ですが、しっかりもう一度施工会社と徹底して決めたいと思います。

ゴミが落ちていた件については作業員のモラルの問題になるかと思われます。もう一度打合せしっかり徹底するよう指導します。

子牛の脱走については、実際社内の者も確認しております。ヘリとの因果関係はわかりませんが、引き続き飛行する際は様子を確認させていただきますのでご協力お願い致します。

また、ルートの変更があったことにつきましてはパイロットから聞き取りを行い指導させていただきます。騒音最大値ですが、BAU牧場71dB、小学校付近64dB、下青木中洞72dBです。当日の風向き、車両が走行することもありますのでその点もご配慮いただければと思います。

○小学校付近の測定ですが、64dBとありましたが、先ほどのJRでも騒音結果が出されているが、これはヘリの騒音も含まれてくるのか。またコンクリート打設はいつ頃まで続くのか。

A：小学校前の測定についてはヘリの騒音も含まれております。コンクリート打設については23号鉄塔はだいたい10月上旬位に終わる計画です。22号鉄塔は10月下旬から11月位です。

6.その他 事務局からの報告

○次回の協議会の予定は12月19日の週、夜7時をと言われましたが、この時期は年末でそれぞれ皆さん忙しいと思うが、何とかならないのか。

A：12月の議会も予定しており19日の週の予定になりますが、それぞれの方の予定できるよう早めに開催の通知を出して対応することにします。